

早期に自動走行車を走らせ、社会ニーズに応じていく

- ◆ 自動走行の社会実装に向けては、車両のハード・ソフトの「技術」と「事業化」の両面で世界最先端を目指す。
- ◆ 技術が完全に確立せずとも、制度やインフラで補いながら、その時点の最新技術を活かした社会実装を進める。
- ◆ そのためには、車両側の性能が走行環境の複雑性を如何に上回ることが重要であることから、走行環境の複雑性の指標化を検討する。

【走行環境指標化の価値】

- > 自動走行車が走れる道路の目安をいち早く示すことができ、公道走行そして事業化を早期に実現する
- > これは、日本全国でなくとも、出来るところから自動走行を実現させ広げていく
- > 出来るところから事業化を実現し、国内各地に存在する移動ニーズに応じていく、社会問題の解決に貢献していく
- > さらに、自動走行車を目にする機会が増えることで、社会受容性を高める

【ニーズ】 地方自治体等 サービス事業者

- > “自動走行を活用した移動サービスのニーズが高い地区において、出発地から到着地まで、どのルートなら走れるか知りたい”
- > “「ニーズがある」道路と「走行できる」道路は必ずしも一致しない。道路に装備（信号等）やルールを加えて、今のクルマで自動走行を運用できないか”
- > “現状の自動走行のスペックで、国内の道路の中でどこを走ることができるのかを把握したい”